

# 鳥取の民話

収録・解説 酒井董美

5

語り手 名越雪野さん  
(明治40年生まれ)  
昭和54年9月17日収録

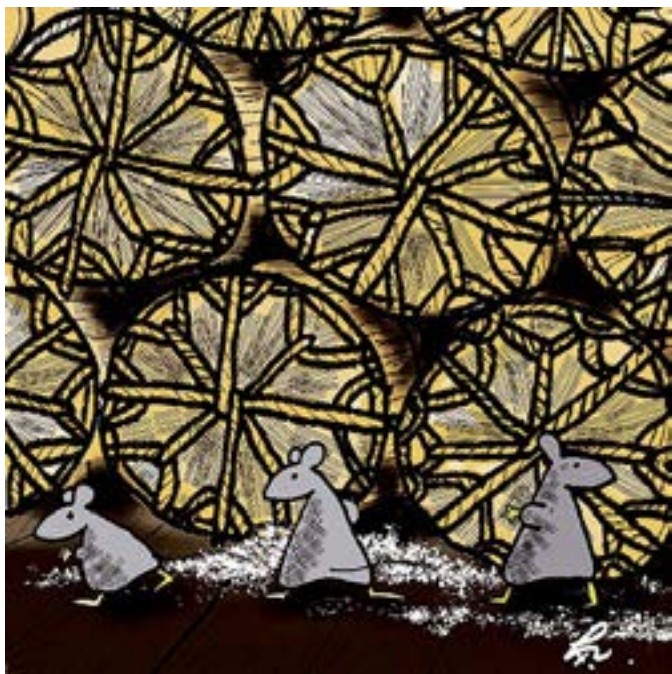
あらすじ

昔々、大きな長者があった。その長者は非常に昔話が好きだった。長者の一人娘に婿を取ることにしたが、あたりにには適当な婿がいなかったので、立て札を出して、「長者に婿がいる。昔話をたくさん語り、これでええ、もう飽いたというほど語った者を婿にする」と書いておいた。

道中の者が「あの長者の婿になれるのなら、おれも昔話なら相当知ってる」と、「この立て札を見て来た者ですが」と言ったら「さうさ、さうさ」と奥の間に通って、長者

## 難題婿

(倉吉市湊町)



イラスト・福本隆男

## 人は知恵がないといけな

は今日も今日もと1週間、やむを得ずに昔話を聞いた。

ええ」とは言わないので、目かに、半年も語ったが、その男はだめだった。次ややはり長者は「こつでいの人も「昔話は相当知って困ってしまった。もう根れ」と語り始めたが、10日で済んでしまった。3人が、一つ思い出した。そ

て話しました。

つ。

それは名和長年が後醍醐天皇を迎えたときに、蔵の中に米をどっさり積んでおいた。その米に

### 解説

日鼠というものは、小さなもので、1粒くわで見てみると、「婚姻・難題婿」に相当しそうだ。また1粒くわえてチが、当てるまるものがな

年と同じことを言った。の中にある「果てなし話」とどう「まだ済まん」・第二類「に」蟻の米運か」と長者が怒り出した。

「たくさん蔵に米が積んであり。10年経ったて。」「蟻が倉に入り、米を一つわ一粒をつかんでよいして持って逃げる…」。男よと運ぶ。また一粒つかは「二十日鼠がチヨロロんでは…」

チヨロ、1粒くわえてま 名越さんの話は、このた逃げた。また、(こ)そ手法の語りであり、それを来て、チヨロチヨロと本格昔話の難題婿の話くわえてチヨロと逃げ型がうまく複合してできた。とやっぱり何力た話であるといえる。県月も言った。「まだ済博物館ホームページで、まんか「まだまだ、快活に語られる名越さんとてもとても」とどうの名調子を味わっていた。ええ」と言われ、その男 (元鳥取短期大学教授) がその婿になったのだ (水曜日に掲載)